

## [Memorabilia]

—Pethau Cofiadwy mewn Astudiaethau Cymreig—

Rhif 7: 水谷 宏「現用カムライグ語の‘-ei-’の発音」

「現代カムライグ語」*Cymraeg Diweddar* は、20 世紀後半、特に 21 世紀に近いころ以後のカムライグ語を「現用カムライグ語」*Cymraeg Cyfoes* と呼んで区別することができる。この変種では、‘-ei-’ と綴られる前方型二重母音の発音が [əi] と [ɛi] の二通りがある。しかし、20 世紀に出版された学習者向きの入門書の他、学術書などでも、前方型二重母音にはそのどちらかが含まれていないものがある。[əi] だけのものとしては、Smith, A. S. D. (c. 1925) *Welsh Made Easy*; Bowen, J.T. & Rhys Jones, T.J. (1960) *Teach Yourself Welsh* の比較的古い出版のものがあり、[əi] と [ɛi] 両音を併記していて、「自由変異」free variation として扱っていると思われるものには、Thomas, P. W. (1996) *Gramadeg y Gymraeg* がある。一方で、説明では両音を併記してはいるが、本課に出てくる単語の発音には [əi] だけが表記されているものに、Brake, P. & Myrddin, M. (1994) *Welsh in Three Months* がある。反対に、説明では [əi] だ

けが表記されているが、テープの録音では [ɛɪ] が用いられているものに、King, G. (1995) *Colloquial Welsh* がある。同じ著者の (1993) *Modern Welsh* では、自明として特に説明を与えず、従って、[ɛɪ] としていると推測するしかないものもある。他方、Thorne, D. A. (1993) *A Comprehensive Welsh Grammar* では、[əɪ] は含まれず、[ɛɪ] のみとなっている。

上記のテキスト類は、英語話者を対象に書かれているので、英語の発音を参照にして、カムライグ語音を説明しようとする場合が多い。従って、われわれ日本人読者が参考にするときには、以下のことに注意が必要である。

カムライグ語の ‘-ei-’ の綴り字の発音が、英語の eye 「目」の発音と同じだとする説明がなされる場合がある。日本で英語教育を受けた日本人であれば、だれもが eye /aɪ/ と発音してしまい、カムライグ語の ‘-ae-’, ‘-ai-’, ‘-au-’ の綴り字の発音と変わらないことになってしまう。カムライグ語では、mae, Mai はいずれも /maɪ/ と発音され、dau は /daɪ/、cau は /kaɪ/ と発音されるが、‘-ei-’ の綴り字の単語、memir ‘maiden’, eiddo ‘property’, cenniog ‘penny’, beirdd (bardd ‘bard’ の複数) 等々の ‘-ei-’ は、/aɪ/ ではなく、[əɪ] と発音されるのである。または [ɛɪ] と発音されて、これらの単語は、memir ['məɪnɪr]~['mɛɪnɪr], eiddo ['ɛɪðo]~['eɪðo], cenniog ['kɛɪnjɔg]~['kɛɪnjɔg], beirdd ['bɛɪrð]~['beɪrð] と発音されるのが一般的である。

では、なぜ eye 「目」の発音と同じとの説明がなされたかということ、カムリの国では、英語の地域的変種（方言）の一つである「ウェールズ英語」 Welsh English, Wenglish も話されており、むしろ話し手の数からは、カムライグ語の話し手の数よりも多い人たちがこの英語方言を日常的に使用しているからなのである。多分のこのような説明をしているテキストの著者自身の英語の方言も、この「ウェールズ英語」の方言の一種であろうと推測できる。そして、この英語の方言では、eye 「目」の発音は /aɪ/ ではなく、[əɪ] と発音されているのである。カムリの首都 Caerdydd /'kaɪrdið/ (英語名: Cardiff /'kɑdɪf/) の街頭で耳にする地元の英語の話者の発音でも、eye [əɪ], price [prɛɪs], life [lɛɪf], rice [rɛɪs] が一般的である。そのような英語の方言を話している学習者が、「カムライグ語の ‘-ei-’ の綴り字の発音は、英語の eye 「目」の発音と同じである」との説明を読めば、memir を ['məɪnɪr]、eiddo を ['ɛɪðo] と発音することは極めて容易なことなのである。しかし、/aɪ/ はあるが、[əɪ] の発音習慣のないわれわれ日本人には、この説明はまったく意味をもたない。むしろ危険な説明ということにもなりかねない。口を大きく開けて /aɪ/ と発音し、口をすこし開けて（上下の歯をかみ合わせるようにして）[əɪ] の発音をし、2種類の「アイ」の発音習慣を身につける必要がある。